

皆さん、おはようございます。そして、新年明けましておめでとうございます。まずは、今日も体育館にシートを敷くなど、会場の準備をしてくれた運動部の部員の皆さんにお礼申し上げます。いつもありがとうございます。

12月22日の全校集会でお話ししてから、まだ20日くらいしか経っていませんが、その間に、2016年から2017年に年が改まりました。短い期間でしたが、皆さんは、どう過ごしましたか。そして何を思いましたか。学校の活動でいえば、補習や講習に参加した人、TOEFLや模試で自分の力を試した人、部活動の練習、試合やコンサート、コンクールに臨んだ人、台湾の高校との共同研究に、台湾に行ってくれた人、SGHの取組みの一環で、ニューヨークに行ってくれた人など、多くの活動をしてくれました。

「1年の計は元旦にあり」といいます。平凡な生活の繰り返しにけじめをつけることは、人間の素晴らしい英知だと思います。正月の意義は、新しい年になった機会に気持ちを一新して、その年の決意をし、意欲を充実させることにあります。

私は、22日に、フォークソング部のクリスマスライブを見せてもらって、「今年は、いい年やったなあ」としみじみと幸せを感じながら帰宅しているときに、不覚にも、JR大阪天満宮駅の下り階段で、足を痛めてしまい、その影響で、この間、ほとんど外出することが出来ませんでした。その代わりと言っては何ですが、いつも以上に家でテレビを見ておりました。大晦日の紅白やガキ使も見ましたが、やはりこの季節は、高校、大学、社会人、プロと多くのスポーツが中継されておりましたので、それを楽しみにしておりました。駅伝、ラグビー、サッカー、バレーボール、バスケットボール、アメリカンフットボールなど、いろいろな競技が行われていましたが、そこで私が強く感じたのは、「人と人とを繋ぐ」ことの大切さです。駅伝では、もちろん襷ですね。他の競技でも、得点に至るまで、パスを繋ぐということです。そして思ったのは、いかに繋ぐかが大切で、そして大変難しいということです。渡す方は、タイミングを図り、どのようにすれば受け取りやすいかを考え、渡される方は、周りの相手や味方の状況をよく見て、どの位置にポジショニングすればいいか、走り込めばいいか、どのように声を掛ければ、渡しやすく、なおかつ効果的かを考えなければなりません。でもそんなことは、一朝一夕にできるものではありません。強いチームほど、日々の練習やミーティングなどを積み重ねることで、単に襷やボールだけでなく、相手への思いやりなど、心もしっかり繋がっているなど感じました。

さて、千里高校は、50周年を迎えました。千里高校の現在があるのは、皆さんの先輩が、私たちの先輩教職員が、千里高校という襷やボールをしっかりと繋ぎ、私たちに渡してくれたからに他なりません。そして、私たちも、先輩から受け継いだこの襷やボールをしっかりと後輩に繋がなければなりません。そのために、この1月から3月までの3ヶ月間をしっかりと過ごしてもらいたい。卒業する3年生は、2年生、1年生にしっかりと千里の襷やパスを渡してもらいたい。2年生、1年生は、それをしっかりと受け取り、やがて入学してくる後輩にも、千里高校の素晴らしさを伝えてほしい。そうした絶えることのない繋がりから、千里高校の未来が生まれてきます。

私は、千里高校15代目の校長です。足利幕府や徳川幕府は、15代で終わりましたが、千里高校は、もちろんそんなことはありません。私の年頭の決意は、これまで先輩が繋いでこられた千里高校という襷やパスを、確実にそしてさらによりよいものにして、皆さんとともに、未来に繋げることです。そのためには、まずは、生徒の皆さんや私たち教職員が、心も体も元気で、一人ひとりが、安心してその力を十分に発揮できるよう、努めることだと思っています。

最後に3年生、いよいよ自己実現の本番の時期を迎えます。不安や悩みがあると思います。それは当たり前前のことです。受験生なら、誰もがこの時期、不安や悩みで一杯です。必要以上に気に病むことはありません。皆さんなら、最後までやり抜いてくれることと信じています。新年を迎え、ようやく歩けるようになったので、大阪天満宮に、初詣に行きました。そして皆さんの志望校合格を、心から祈願してきました。信仰や宗派は、いろいろあるでしょうが、どうぞ安心して、受験に臨んでください。そして、この1年が、生徒の皆さん、そして我々教職員、ここにいてすべての人にとっていい年であることを期待して、私の挨拶を終わります。みんなで、いい年にしましょう。